

かごしま市民のひろば

特集号

装い新たに開館 10月29日 鹿児島市立美術館

昭和60年10月1日 No221 編集と発行／鹿児島市広報課・鹿児島市山下町11番1号 〒892 市役所でのんわ②1111

市民文化創造の拠点として

市民の待望久しかった新美術館が、装いも新たにいよいよ十月二十九日に開館いたします。屋根の銅板や外壁の桜みかげが城山の緑に映え、市民文化創造の拠点地域として、ここ城山の麓も一段と風格を新たにした感じがいたします。

鹿児島市立美術館は、公立としては九州で最も早く昭和二十九年に設置され、今までユニークな地方美術館として活動を続けてまいりましたが、さらに文化の

香り高いまちづくりをめざして、五十八年十月に新しい美術館建設に着手いたしました。

鹿児島市では新美術館の開館にあたり、郷土作家はもちろん、西洋近代美術の名

作など十九世紀以降の内外作家の作品の収集に特に力を注ぎ、お陰様で極めて充実した近代美術館としての内容を整えることができました。

今後、この新しい美術館が市民の皆様の心のやすらぎの場として十分利用されることを願ってやみません。

鹿児島市長 赤崎義則



●美術館全景



●黒田清輝「湖畔」



●藤島武二「ヴェルサイユ風景」

藤島武二（鹿児島市池之上町生まれ）は、黒田にもつとも早く接した画家の一人ですが、浪漫的な作風から、装飾的画風へ、さらに晩年はスピードのある筆致で堂々とした絵画表現をみせていました。和田英作（鹿児島県垂水市生まれ）は、

主な出品作品（作品借用期間の都合で前期・後期の二回に分けて展示されるものもあります）
○黒田清輝『読書、針仕事、婦人団、舞妓（重文）、湖畔、鉄砲百合、梅林』
○藤島武二『桜狩（習作）、天平の面影、黒扇（重文）、東洋振り、匂い、耕到天』
○和田英作『渡頭の夕暮、こだま、おう

開館記念展 10月29日(火)～11月24日(日)
日本近代洋画史における郷土作家たち

その一

黒田清輝 藤島武二 和田英作

賀県出身）と明治二十七年に開設した天真道場や同二十九年に黒田、藤島、和田らで結成された白馬会を舞台に展開していきました。

この外光主義は、黒田が久米桂一郎（佐賀県出身）と明治二十七年に開設した天

真道場や同二十九年に黒田、藤島、和田らで結成された白馬会を舞台に展開していきました。

今回の開館記念展では、このように日本各地の美術館などのご協力により、黒田清輝・藤島武二・和田英作の三人を

採り上げ、その偉大な業績を紹介します。

全国各地の美術館などのご協力により、

黒田清輝・藤島武二・和田英作の三人を

立されました。

このように郷土出身の画家が中心になって日本近代洋画の基礎が確

立されました。

今回の開館記念展では、このように日

本の近代洋画の発展に貢献した郷土作家、

黒田清輝・藤島武二・和田英作の三人を

立されました。

今回の開館記念展では、このように日

本の近代洋画の発展に貢献した郷土作家、

黒田清輝・藤島武二・和田英作の三人を</p

